

新年号

酪農

とちぎ

迎春

あけまして
おめでとう
ございます

皆様には希望にあふれる
新年をお迎えのこととお慶
び申し上げます、今年も健やか
なる一年であるようお祈り
申し上げます。

本組合も発足し五年目を
迎え、皆様の期待に応える
べく邁進して参りますので、
本年もよろしくお願い致し
ます。

元旦



新年の挨拶

代表理事組合長 前田 忠利



平成十八年の輝かしい新春を皆様と共に迎える事が出来ましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年は栃木県酪農にとって、初めての開催であります、第十二回全日本ホルスタイン共進会・第四回全日本ジャージー共進会栃木大会が、名誉総裁であられます高円宮妃殿下をお迎え致しまして、十一月三日、六日の四日間に亘り開催することが出来ました。天候にも恵まれて、全国からの酪友を始め多くの来場者、通算六十九万人を迎え、乳牛共進会と併せて、酪農産業の知識の啓蒙や酪農体験、骨密度の測定と「牛乳に相談だ。」

のPR、牛乳製品の消費拡大のPRや後継者育成の為の高校生等を対象とした技術研鑽の実践体験のジャッzingスクール等を行うなど、酪農と消費者との交流の場として盛大に開催することが出来ました。

「本県代表牛は自県産で」の言葉で長年に亘り改良に努力した成果である愛牛、ホルスタイン種三十四頭、ジャージー種四頭が選ばれ出場し、その結果準名誉賞に本組合員の川田佳男氏所有牛が選ばれました。更に優等賞七頭、一等賞十四頭と素晴らしい成績を収める事が出来ました。出品者の皆様のご努力に対し敬意を表すと共に心よりお慶びを申し上げます。ご支援を戴きました県を始め、市町村や関係団体、各企業・メーカー、実行委員会事務局員外関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。飲用牛乳の消費が、ここ数年減少し乳製品向けが増加し過剰在庫

となっている事から、全国の計画生産は十六年に続いて十七年も対前年比九六%の減産計画生産となり、関東生乳販連への割当て数量は、前年比九七・三%の一、三一九、九四六tの割当てとなりました。上半期の生乳生産量は対前年比九八・一%の六七八、〇〇二tでしたが、下期に入ってから生産が回復して年度末には割当てを七〇〇t程度オーバーが予測されます。昨年中に五、〇〇〇tの特別対策（低い関税で輸入されている乳製品価格と同じようになる様安価で乳業メーカーに販売して輸入乳製品の代りに使って戴く事です。）を行い、年度末までに残量を処理する事としています。

平成十八年度の計画生産は昨年度より更に低い割当てになる可能性が強まっています。関東生乳販連としては、年々減少し続けている生産に危機感があり、生産は自然体での生産として計画をオーバーした場合は特別対策をする考えであります。消費者に安心して利用して戴く為の生産履歴や乳質の統一規格設定により駄牛淘汰も考えながら、関東の酪農基盤を守って行く考えであります。

この様な状況の中にあつて昨年

は全国で飲用向け生乳kg当り十五銭の拠出を戴いて、中央酪農会議で「牛乳に相談だ。」という標語でPR、パソコン、携帯にメールマガジンの配信、テレビコマースヤル、高校生対象に骨密度測定など飲用牛乳の消費拡大の取組みをしていますが一向に消費回復の兆しが見えない状況にあります。

日本酪農政治連盟としては昨年十一月九日に全国酪農民大会を開催し、WTO農業交渉で重要な局面を迎えている事に対し、牛乳製品の国境措置の堅持を強く要請し、生乳需要拡大に関する決議では、消費の減少に歯止めをかける拡大に向かうことが酪農の安定的発展には不可欠であり、一層の需要拡大対策が必要として拠出金増額を決め、又自らも牛乳乳製品の消費拡大に取組む事にしました。その一環として組合員職員の皆様に先月規模別にバター、チーズの割当てをお願いして、ご協力を戴きました事誠に有難うございました。

合併以来組織の合理化、効率化を組合員の皆様にご理解ご協力を戴き進めて参りました。昨年は那須高原CS・支所が完成し順調に稼動し、取引乳業メーカーより、更に安全・安心の「酪とち生乳」



として高い評価を載っています。更に集送乳の合理化も図る事が出来ております。

栃木県南支所新設につきまして、建設委員会を設置して、新設候補地、施設面積、その他関連事

項等を協議し、理事会で承認を受け、建設に向け更に検討を重ねて完成を目指して取組んで参ります。地域合理化の中で事業所の統廃合についても地域組合員の皆様のご理解を戴き行いたいと考えていま

す。又、遊休資産の活用、処分についても適切に行って参ります。組織の合理化は合併したからこそ出来る部分が多くあります。この機会を逃す事無く進めると共に、酪農組織の抱える多くの課題に適

切に対応して行く為役職員一体となつて努力して参りたいと存じます。関係機関の皆様の指導と組合員の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

新年知事あいさつ

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の皆様、あけましておめでとございます。

昨年開催されました「第十二回全日本ホルスタイン共進会栃木大会・第四回全日本ジャージー共進会栃木大会」につきましては、皆様の御努力により、本県出品牛が準名誉賞をはじめとし、優等賞七点を獲得し、過去最高の優秀な成績を収めることができました。ま

た、共進会と併せて開催しました「とちぎファームフェスタ2005」につきましても、関係者の皆様に多大なる御協力をいただき、「ミルクの国とちぎ」の名声を全国に響かせることができました。皆様には、今回の素晴らしい大会を契機として、なお一層、乳牛改良の機運を高めていただき、後世に繋げるすばらしい酪農経営を目指して頂きたいと思えます。

さて、栃木県政を預かるという重責を担い、身の引き締まる思いでごあいさつを申し上げた日から、早一年余が経過いたしました。私はこの間、「対話と協調」を基本とした「県民中心」「市町村重視」と

いう考え方のもと、県政に全力を傾注して参りました。おかげさまで、県民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、中学校全学年での少人数学級（三十五人）の実施、医療費の小学校三年生までの無料化、県庁舎建設の規模縮小など、早急に取り組むべきと考えました課題について、実現・方針決定をすることができました。就任二年目を迎える本年も初心を忘れることなく、全力を挙げて責務を全うして参る決意であります。

本年は、新しい総合計画のもと、新たなスタートをきる年になります。計画の中では、これからの「とちぎ」づくりを進める上で県民の皆様と共有すべき基本姿勢として、「県民が主役」「県民協働」「地域の自立」を掲げております。併せて、県民の皆様とともに中長期的な視点から重点的に取り組むべきテーマとして、すべての活動の原動力となる「人間力」の向上

や、少子化時代における次世代の育成、そして県民自らの創意工夫による個性あふれる地域づくりの三つを取り上げ、今後の五年間に特に力を入れていくことといたしました。

私は、新しい時代を創っていくという強い決意と未来への確固たる展望を持ち、本県の新しいキャッチフレーズ「いいひといいこと つぎつぎとちぎ」のもと、県民の皆様とともに、つぎつぎに幸せが訪れる元気な「とちぎ」の実現を目指して最大限の努力を傾注して参りたいと考えておりますので、より一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が酪農とちぎ農業協同組合の皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



新年のあいさつ

青年部本部部长 植木 茂



新年、明けましておめでとうございませう。平成十八年の初春を迎えまして、皆様には新年のお慶びを申し上げます。

さて、青年部活動並びに各事業に対して、多くの部員の理解とご協力頂き、誠にありがとうございます。また組合役職員の皆様におかれましては、青年部活動に対して温かいご支援を承りましたこと、厚くお礼申し上げますとともに、これからより一層のご指導、ご鞭撻の程宜しく御願ひ申し上げます。昨今、日本経済は長期的な景気低迷に直面しています。多少の光は見えてきたものの、酪農業には、まだまだ回復の兆しは遠いようです。重ねて、『食』の安心・安全に

消費者は強く関心を寄せるようになり、生産者と消費者が、もつと理解を深め合いながら、お互いを理解しつつ牛乳の生産に努めなければなりません。我々青年部は、酪農業を基礎とし豊かな地域づくりを勧める先導的実践集団としての役割は極めて重要であり、青年部の力を結集し、より一層の組織力と活動内容の充実を図り、外に誇れる活動を実践して行きたいと思ひます。

昨年、行われたファームフェスタ2005は、酪農界の最大イベントでした。そこには、共進会に出品した者、わくわく牧場に参加した者、大鍋料理(牛乳入り豚汁)に参加した者、さまざまにスタンスで、ファームフェスタ2005を支えたのではないのでしょうか。その中で特に私を感じたことは、わくわく牧場で乳牛に触れ、『乳牛の温かさ』を知ってもらえた事でした。会場に来て頂いた、特に小さな子供達が、目を爛々と輝かせている姿は、これから我々のすべき事を示すかの様でした。青年部、栃木県酪農青年女性会議はもとより、生産者のみなさん一人一人が広告塔になり、より消費者に理解を深めて頂きながら、さらに安心・安全な生乳生産に努めていきま

しょう。

最後に、青年部部員は一致団結し、青年部活動に積極的に取り組んで参りますので、組合役職員・組合員のご理解とご協力を宜しく御願ひ申し上げます。そして、この酪農業界の幸多きことをお祈りしまして、新年のあいさつといたします。

女性会本部部长 斉藤典子



新年あけましておめでとうございませう。皆様には御家族とお健やかに新しい年をお迎えのことと存じます。

女性会も、組合長を始め皆様方の温かいご支援とご指導の下、発足から四年が経過致しました。会員の皆様方のご理解とご協力により、有意義な活動が出来ますことを嬉しく思っております。

昨年は、第十二回全日本ホルスタイン共進会並びに第四回全日本ジャージー共進会が開催されまし

た。開催期間中は天候にも恵まれ、六十九万人の方が来場されました。「酪農県としての栃木」を、理解して頂いたのではないかと思っております。

昨年の女性会としての活動は、全体研修会として、那須高原クイーンステーションの視察、酪農とちぎ技術顧問斉藤達夫氏のご協力により「哺育・育成飼養管理技術について」と題し講演会を開催致しました。哺育・育成は、私達女性の担当としている仕事です。会員の皆様の関心が高い講演でしたので、二百余名の参加者がありました。「育成は仔牛の成長をよく観察し、その内容を記録しておくこと。また、清潔な環境で育ててこそよい牛になる。」などポイントを押えた講演で、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

また、今年度女性会として、私達酪農家も牛乳を知り、消費拡大に努める事にしました。総会・役員会において、牛乳に関する小冊子を添付するなど、牛乳は体によいこと言っただけでなく、消費者の皆様により関心をもって頂ける会話が出来るようにしたいと思います。本年もよりよい牛乳の生産を目指して頑張れる一年になります事を祈りつつご挨拶と致します。



東西南北

那須高原支所

女性会支部料理講習会



十二月十二日、女性会黒磯支部、高林班は、関東生乳販売・森永乳業(株)エムズキッチンとの協力をえて、料理講習会を開催いたしました。

この料理講習会は、「牛乳を食べる」をテーマとして、酪農生産者自身が牛乳乳製品を取り入れた食卓を実践し、自ら食文化の発信者となり乳製品の消費拡大につなげることです。料理実習の内容は、毎日食べても飽きない乳製品を使った和食レシピということで、「まぐろのチーズ寿司・かりかりチーズかき揚げ・カマンベールと三つ葉のミルク茶碗蒸し」など、簡単で美味しい料理を紹介してい

いただきました。

楽しく料理した後、管理栄養士の小山先生から牛乳・乳製品の栄養・健康効果についての話を交えたの試食会となり、見て・感じて・五感をフルに使った、有意義な一日でした。

*レシピをご希望の方は那須高原支所までご連絡下さい。

宇都宮支所

女性会支部視察研修



女性会宇河今市支部は十一月二十八日、創立九日、創立四十二年を経て年間約八十一万人の来場者数を誇るエンターテイメントファーム、南房総のマザー牧場へ視察研修に行きました。

二百五十ヘクタールの広々とした牧場には沢山のエリアがあり、様々な企画が催され、来場者を楽しませていました。私達はまず牛

舎を見学し、ゆったりとくつろぐ

牛たちの傍らで、担当職員から牧場の概要や日常業務の説明を受けました。また、他のエリアも散策し楽しい牧場視察となりました。

泊りは海を見渡せる眺望に恵まれたホテルで、砂浜に打ち寄せる波の音を聞きながら温泉につかり日頃の疲れを癒しました。

帰路は、誕生寺、新勝寺と、立ち寄るたびに土産物が持ち込まれ、頭の中はもう自宅を思っておられるようでした。

栃木県南支所

女性会支部研修会

芳賀支部



十一月八日に部員五十名は、国会議事堂・NHK歌謡ショーを見学して参りました。何度か車窓からは見ていましたが議事堂内

を見るのはめったに無いので良い

社会勉強になりました。NHK歌謡ショーはテレビと同時に中継の為、スクリーンの大画面と生の舞台を並行して観ることが出来、現場の緊張感と出演者に魅了され、全員満足の帰宅となりました。

河内南部・下都賀支部

十二月十三日、国分寺町公民館において食と農を考えるとというテーマに添って調理実習を開催しました。館野道子支部長を始め二十五名が参加し、家庭にある野菜や地域の食材を活用した料理が出来上がりました。五品目を作り、特に生クリームとバターを沢山混ぜ込んで焼き上げたスコーンが好評でした。食育基本法が成立した中、農家が受け継いできた食文化を大切に、農村女性として「食」の



見直しを発信する一端となりました。
*レシピをご希望の方は県南支所までご連絡下さい。



部課だより

生乳販売部

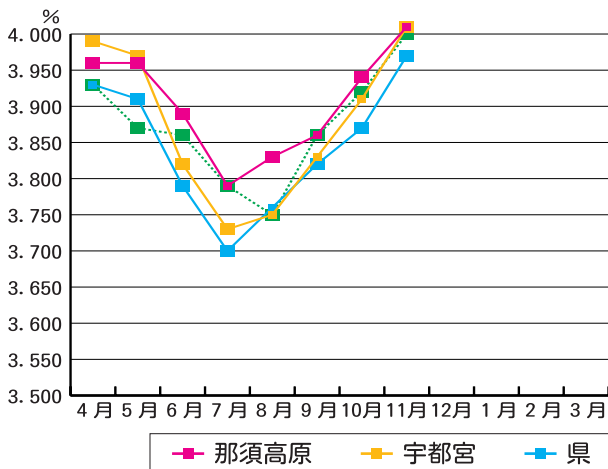
生乳生産量堅調に推移

十一月度の生乳生産量は、一六、九七九トン（前年比一〇一・三％、計画比一〇〇・六％）と十月に引き続き前年を上回る生乳生産量となりました。

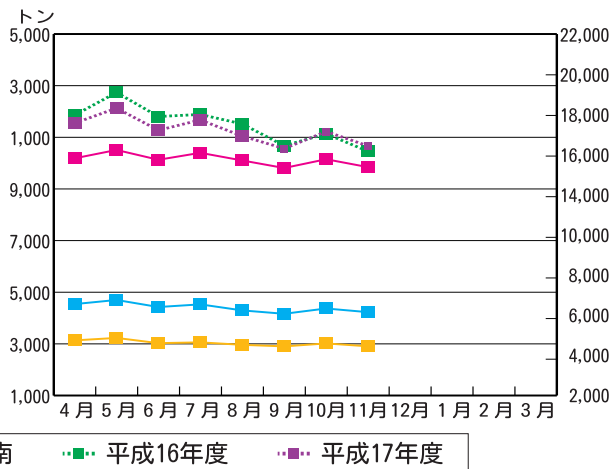
支所別にみると、那須高原支所においては前年比一〇一・二％、宇都宮支所一〇一・三％、県南支所一〇一・三％と全支所で前年を上回る実績となりました。

関東においては前年比一〇〇・三％で累計では九八・五％と累計は前年に比べ減少しているものの徐々に回復基調が見受けられます。関東の十一月の特定乳製品向けについては四・五一％（前年三・五〇％）と前年を上回りました。飲用牛乳向けは一・三％の減と飲用需要の回復には到っておりませんが、全国の生乳生産量においても回復の兆しが見受けられます。

◆ 脂肪率の推移

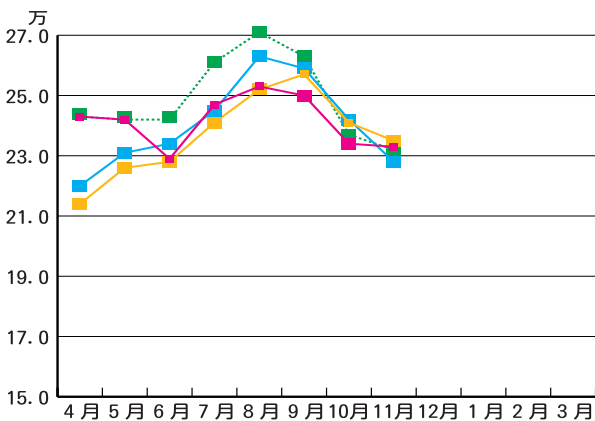


◆ 乳量の推移

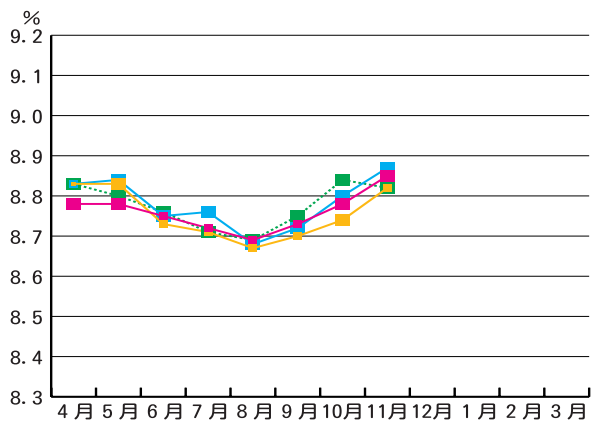


組合における乳質成績は、脂肪率が前年同様四・〇〇％、無脂固

◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



形分率は八・八五％となりました。細胞数については前年値を下回る



酪農部

酪農とちぎ女性会全体研修会

十二月五日、那須塩原市ノワールリヴァージュ鹿島館に於いて、当組合技術顧問の斎藤達夫氏を講師に迎え、女性会全体研修会が開催されました。「哺育・育成飼養管理技術について」と題して行われた講演会は、約二百名の参加を得、会員の経営や技術の向上への意欲が感じられました。

講演は、観察・記録等の

(二三・二万)好成績となりました。十一月迄の乳量及び乳質成績は上記のとおりです。
また、生乳生産は前年並み水準まで回復しましたが、飲用消費は依然停滞傾向にあります。
今後更なる消費拡大運動を行なってまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



管理の基本、発育ステージに応じた管理のポイント等を熱心に学習し、参加者は乳牛改良の推進と能力を最大限発揮させる飼養管理技術の向上に励まれる事と思います。参加者からは、講話が面白くて時間が経つのが早く感じられた、自分の経営に取り入れたい等、大変好評でした。また、講演会の前後に那須高原CS視察を行い、最新の受送乳システムと検査室を見学しました。

関東甲信越酪農青年女性会議 親善ソフトボール大会



十一月二十九日(火)、関東甲信越酪農青年女性会議(植木茂委員長)主催の第一回親善ソフトボール大会が、埼玉県所沢市インボイスSEIBUドームにて開催されました。同会議で初めての試みでしたが、各県会員より八チーム(百三十名余)の参加

がありました。A・Bブロックに分かれ、ブロック優勝と総合優勝(ブロック優勝チームの勝ち点と得失点差で勝敗を決する)を目指して、白熱した好ゲームが繰り広げられました。

栃木県からは二チーム(二十八名)参加し、参加者はドーム球場の雰囲気と人工芝の感触に、やや興奮した様子でした。

エキシビジョンとして、戸田総合病院実業団チームと、各チーム代表者との対戦が行われました。

皆、実業団のボールの速さに驚いていましたが、見事打ち返すと大きな歓声が上がっていました。

試合は、栃木Bチームがブロック優勝し、総合では準優勝でした。参加者は、プロの選手と同じグラウンドでプレーする事が出来て、大変満足した様子でした。中には名残惜しそくに帰路に着かれた方もいました。

大会終了後、同会議役員が中心となり所沢駅で『牛乳に相談だ』キャンペーンとして、道行く消費者にキャンペーングッズを配布しました。

また、中国割烹旅館「菊水亭」にて懇親会が開催され、夜遅くまで語り合い、懇親を深めました。

出逢いパーティー

十二月十日(土)宇都宮市ホテルニューイタヤにて、出逢いパーティーが開催されました。

前回同様、青年部を中心として企画を練り、参加者を募集しました。今回の参加者は、青年部員十七名、女性十五名でした。

青年部相馬副部長の司会で開会し、巧みな話術で、参加者の緊張も徐々にほぐれ、自己紹介のあとのグループトークでは、終始和やかな雰囲気で行いました。会場が本館八階のレストランという事で、宇都宮市内の夜景をバックに参加者は、お喋りを楽しんでいました。



フリートーク(夕食)でも、食事を取りながら話がりなが、笑い声も絶えませんでした。お互

いに打ち解けて、大変盛り上がりていました。

マッチングでは、三組の方がカップルとなり、他の参加者やスタッフから大きな拍手を受けていました。願わくは、この縁を大切にして頂きたいと思っております。二次会にも、二十一名の方が参加され、お喋りを楽しんでいました。

参加者は、短い時間でしたが、有意義なひと時を過ごされた事と思います。

スタッフの皆様には、パーティー開催に多大なご協力を頂き、ありがとうございました。

家畜市場成績

平成17年12月

(単位:円(税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野十日	ホルス雄	140	-	71,400	3,890	38,768
	F1雄	82	-	213,150	58,800	154,427
	F1雌	65	-	142,800	36,750	96,552
館七日	ホルス雄	6	68	50,000	41,000	46,667
	F1雄	6	74	188,000	152,000	171,167
	F1雌	4	74	124,000	114,000	119,250



岩淵至正氏が 緑白綬有功章を授章

さる十一月十七日、大日本農会主催による「緑白綬有功章」の授章式が、同会の総裁であられる桂宮宣仁親王殿下のご列席の下、東京都・三會堂ビル内で執り行われ

ました。

本県から、本組合員の岩淵至正氏（益子町・前県農業士会長・前県農業者懇談会副会長）が授章され、武政邦夫大日本農会会長から表彰状が交付されました。岩淵氏は酪農を営みながら、地域農業の発展を進めるべく振興と後継者の

育成にあたり、

さらに農業者組織の育成などに尽力され、その功績と努力が認められこの度授章されました。



ハーフ・タイム



明けましておめでとございませう。今年の干支は戌。犬は古くから勇敢で人に忠実であることから、幸せな生活を招く神の使いとして番犬にペットにと可愛がられている。今年こそ戌年にあやかっけて平穩無事・家運隆盛・健康長寿の良き年であるよう願かけた。

今年も新春スポーツが、茶の間を賑わしてくれる。箱根駅伝・サッカー・ラグビー・アメフト等々が登場し、郷土と母校の声援を背に、力と技の激しい闘いが始まる。今年は何んなドラマを見せてくれるか楽しみだ。

花粉症に悩む方々へ吉報を。独

立法人研究所が開発を進めて来た「花粉症緩和米」の栽培に成功したことから、今後の治療法に光明をさした。この緩和米は、スギ花粉症抗原蛋白質の一部（T細胞工

ピトープペプチド）を、遺伝子組換えにより米の胚乳部分に発現させて蓄積した米で、この米を食べると、アレルギー反応を誘因するインターロイキンという物質の量が低下し、この反応にともなうくしゃみや鼻水を引き起こす物質（ヒスタミン）の産出量を抑制するメカニズムのようである。朗報が早期に実用化するように切望したい。

本県は車社会の先進県のようにある。県民の運転免許保有率は、六六%と群馬県の六六・八%に次いで全国二位にある。また、一世帯当たりの自家用車保有台数は二・二四台と全国七位の統計がある

が、本当に富裕民なのか、それとも交通網整備遅れのため、車がないと生活できない後進県か。

◆ ◆ ◆
今年の酪農・乳業界の大きな課題は「牛乳の消費拡大」であるが、十五年度の飲用牛乳（個人・業務用含む）の年間一人当たり消費量は、二〇〇ml換算で一七四本だった。地域別に見ると、トップは北海道の一九九本、次いで関東の一九二本、中国一八七本、以下東北一八六本、東山（山梨・長野）一八四本の順になっている。

◆ ◆ ◆
また、都道府県別では、一位群馬県の三七九本、二位は本県で三五〇本、三位茨城県の三〇八本と北関東の三県が上位を占めている。生乳生産全国二位の本県、消費なくして生産なし」を合言葉に、積極的な消費拡大運動を展開しましょう。

パソコン一年生 昨年のPC業界を顧みる

一昨年はブロードバンドが拡大し、高速通信が身近なものとなりました。二〇〇五年はブログが大流行。ブログとはもともとウェブログを略した言葉で、日々更新される日記的なサイトの総称です。

手軽に作成できることもあり、政治家・芸能人・スポーツ選手・作家や大会社社長なども広く利用し、著名人の意外な素顔を覗かせたり、あつと驚く情報を各メディアより早く発信したりもしました。また、がんばれ生協の白石さんや農家の嫁の事件簿など、ブログで有名になった方もいました。

一方、タリウム毒殺事件では母親の様子をブログに書き留めたり日記をストーリーカーの材料にされる女性がいったりと、悪用される面もありました。

ブログ以外では2ちゃんねる発の電車男大ブレイク、のまねこ問題、ネットによる集団自殺、DVD新規格統一交渉長期化、萌え産業拡大、個人情報保護法に伴うセキュリティ対策、ライブドアや楽天の企業買収劇と沢山の出来事がありました。

さて、二〇〇六年は何が流行るでしょうか。